

宮城県 「水土里ネット大倉川」～地域連携サポーター～

役員：9人 職員：2人 組合員：259人 受益面積：259ha

1. 地域の概要

本地域は、宮城県仙台市の西部に位置し、蔵王連峰をはじめとする奥羽山脈によって山形県と境する中山間地帯である。地区の中央を西から東に広瀬川が貫流し、受益地は東西8km、南北4kmの、広瀬川の両岸に細長く発達した河段丘性台地となっている。

本地域は、昔から林業及び酪農などを主な産業としており、農業者の所得確保は難しく、中山間地域の産業として水田、畑作、畜産等農家の生活向上と農業生産の拡大をめざし、新規開田事業、土地改良事業の推進により、日々営農に精励してきた。

現在は市町村合併により仙台市青葉区となり、近隣への大型店舗の出店や都市住民の住宅ができるなど都市化混住化が進みつつある。農家経営は効率化したものの、農家の耕作面積は小さく、畜産などとの複合経営や兼業としての農業となっている。

2. 取り組みの背景、きっかけ

平成14年に「水土里ネット」の愛称が決定され、大倉川土地改良区として、「どんな活動・運動が出来るのか？職員は女性2名！さあどうしよう！？」と考えた。主催ではないけれども共催なら何とか活動ができると思い、地域の清掃活動クリーンウォーキングにスタッフとして職員が参加した。100名以上の方が参加するということもあり、この機会に一般住民の方々とコミュニケーションを図り、水土里ネットの役割・大切さをアピールしながら水との関係が深い、“お米のクイズ”を企画し、地元の新鮮野菜を景品にしたところ大好評で、年々、ゴミ拾い後の楽しみが恒例となった。

地元で収穫したばかりの新米を景品に提供したところ、[また、来年も参加します]という声がとても嬉しく、達成感でいっぱいになった。少ない職員でも、ひとつひとつ自分達の出来る事から積極的に参加、活動をする事で、地域になくてはならない水土里ネットになっていると、今では確信している。

3. 運動の基本理念等 『生産者と消費者の結が田園と子供たちを育む』

土地改良施設が農家だけのものではなく、非農家の生活にも恩恵を与えており、多面的な役割を担っていることを伝えることは、都市住民との混住化が急速に進む本地域にとって、必要不可欠と考える。

当土地改良区は、職員が2名で、しかも女性しかいない小さな団体であることから、農地・水・活動組織を含む地域住民に協力してもらえる運動を企画する必要があった。21創造運動は、職員とお金がないから出来ない運動ではない。アイデアと熱意があれば、継続的な(身の丈にあった)運動が十分できる。

この美しい農村風景を次世代に引き継ぎ、より一層魅力ある農村環境を築くことが我々、水土里ネットの大きな役割という思いから運動しているが、協力者や参加者が増えるにつれ、水土里ネットの思いを超え、地域住民の願いになりつつあると感じている。

4. 主な運動の概要(開始年)

①内部運動

- 21 創造運動 土地改良区のPR活動企画(H21)

②外部運動

- 「宮城地区まつり」(H21)
- 学校教育・児童館との連携(H14)

5. 運動全体の成果と今後の展望

平成14年から始めた21世紀土地改良区創造運動に携わり、活動を通じて様々な方々のご協力と理解を得た。水土里ネットを効果的にPRするために、都市住民の目線に立ち本水土里ネットを客観視しながら、役職員や他の水土里ネットと連携を行い活動したことにより、目的・目標を職員間で話し合う良い機会になった。

運動を始めてから10年が経過し、はじめの頃は「都市住民の方が興味を持ってくれるか？」ばかりを思っていた運動であったが、今は「どう地域に貢献するか」に変わっている。

本運動は、農業者と非農業者が共生する本地域で、水土里ネットが全てをこなすのではなく各々の役割を確立し、地域ぐるみでの活動を支援することが大切だと思われる。本地域において、21創造運動で培った運動は、農地・水・環境保全組織が設立し円滑に活動す原点であるとも考える。本運動は、組合員だけではなく、地域住民(非農家)を交えた運動として必要不可欠なものになり、今後も水土里ネットとして人と人との繋がりのため、水土里ネットが担う重要性和地域にとって大切な水利施設の延命化のため積極的に継続していく。

